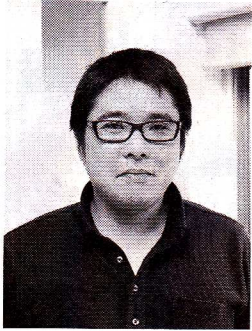


NPO法人フェアトレード
東北 代表理事
布施龍一氏



ふせ・りゅういち 宮城県石巻市
で、ひきこもり、知的障がい、発達
障がいの若者たちに、米作りなどの
働く場を提供し支援する。NPO法
人「フェアトレード東北」を主宰。
震災被災者のための支援活動で、
PhRMA米国研究製薬工業協会
から「希望の象徴」として顕彰。

私たち「フェアトレ
ード東北」が運営している
共同生活の寮や事務所な
どの施設も、今回、被災
しました。私自身の実家
も津波で流
されてしま
いました。
施設利用
者の安否を
確認しなけ
ればと、寮
や当事者の家、避難所を
訪ねて回りました。
道路は寸断され、がれ
きが行く手を阻みます。
腰までの水の中を泳いで
回りました。山道を越
え、孤立した牡鹿半島へ
も回りました。



そこには、驚くべき光
景がありました。
津波を避けるために沖
に避難した漁師さんが、
がれきで浜にも戻れず、
3日間飲ま
ず食わず。
4日目に戻
ってきて
も、食べる
ものもな
い。また、
個人の家が「避難所」と
なり、一軒に40人が暮ら
しているところ、50日
間、高齢者の方たちが風
呂にも入れないでいる場
所もありました。
支援物資がたくさん来
ている大きな避難所の片

隅にうずくまって、声も
あげられないおばあさん
がいました。足が痛く
て、避難所の炊き出しの
列にも並べない方も多く
いらっしやいました。
そういう、いわば「取
り残された」人たちに思
いを馳せること。それが

「場所」ではなく「人」に 届く支援を目指して

今、日本社会に必要とさ
れていると思います。私
たちは、以前から障がい
などにより、「社会全体
のは、抽象的な「被災地
の人々」「仮設で暮らす
人々」ではなく、そこに
生きる一人一人の「生
活」を思い、手を伸ばす
こと、足を運ぶことだと
思います。
社会は、どうしても大
きい避難所や派手なイベ
ントに目がいきます。し
かし、知ってほしいので
す。「一人一人の生活」
を。
例えば、在宅被災者の
生活の過酷さを想像して
ほしいのです。
避難所でぜん息の咳が
止まらず、周りに気兼ね
をして、ヘッドロだらけの
家に帰らねばならない方

と見られます。
自立していて恵まれて
いるのではなく、特別な
理由があって、家から離
れられないというたくさ
んの人々——石巻で9月
末の時点で在宅被災者は
7000人です——の存
在を忘れてほしくないと
思います。
しかし、二つの希望の
光があります。
人と人とのつながりの
大切さが再認識されたこ
と。家族や友人、仲間の
大切さです。そして、も
う一つ。私たちのところ
にも、たくさん若い人
たちが手伝いに来てく
れています。ひきこもりだ
ったメンバーも「困って
いる人のため」と、ツイ
レ清掃など、はりきって
頑張っています。
人のつながり、そして
若者。これが未来への希
望です。